

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 8 月 25 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401335		
法人名	(有)藤田企画		
事業所名	グループホーム 佃の里		
所在地	雲仙市吾妻町永中名 47-1		
自己評価作成日	平成 24 年 9 月 1 日	評価結果市町受理日	平成 24 年 10 月 23 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 24 年 10 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様・御家族・ホームがなんでも気軽に話せるような施設でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

近隣には学校やスーパー等があり、活気のある中にも自然環境に恵まれた場所に立地し、整骨院が母体で、毎日訪問リハビリが行われている。管理者は僧侶の資格も有し、外部で講話をするなど、人と人との縁を大切にされている。利用者の体調に配慮しながら、一人ひとりのペースを尊重した対応に心がけているホームで、利用者は自分らしく落ち着いた生活を送られている。又、日々の様子を「佃の里通信」で家族に報告したり、福祉体験や人材育成の貢献として実習生の受け入れ等も幅広く行われている。外部評価を改善の一端と考え、取り組まれており、更に利用者の生活の向上に期待ができるホームである。
--

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の一員を目指し、隣・近所のつきあいを行っている。	ホーム独自の理念をかかげ、管理者と職員はその理念を共有し、日々利用者に関わる中で具現化されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の小学校との交流・中学校の福祉体験などの受け入れを行っている。	日常的に利用者と散歩や食材の買い物に出かけ、地域の人達と挨拶を交わされたり隣接するデイサービスの利用者と交流をされているが自治会への加入はない。	地域住民の一員として自治会に加入され、お互いの活動や行事に参加する等して交流を深められ運営推進会議や避難訓練等への参加にも協力をお願いされることに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談をうけている。又わからない相談には地域包括センターなどを紹介している。	/	/
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報や家族からの情報などを出し合い、ホームなりの方向性を見つけている。	会議が近づくと開催日を連絡する等努力されているが、当日欠席される事もあり開催が難しい時もある。	欠席の場合を想定し人員の充実に向け、多方面に働きかけをして定期的に（年6回以上）開催される事に期待したい。
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事や相談したいことなどはすぐに包括支援センターや広域などへ尋ねている。	公的扶助の利用者がおられる為市の訪問の機会に日々の生活やニーズの具体をお伝えしている。地域包括支援センターの担当者とは常に連絡を取り、運営推進会議を始め相談事等実直に対応して頂いている。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関もはき出しの窓も全て解錠している。身体拘束をしない分、スタッフ間で共有し、アイデアを出し合っている。</p>	<p>ベッドの足をはずして転落防止をしたり車椅子移乗や椅子から立ち上がり時は職員間で連携プレーによる見守りをしながら、抑圧感のない自由な暮らしを支えられている。ヒヤリハットの活用もあり、詳細に記録されている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>スタッフが一人で抱え込まないようアイデアを出し合い試行錯誤しながら行っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護についての紹介説明を行っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>特に重要事項説明書については十分に時間をかけ説明を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入所時の重要事項説明の折り、意見要望が言える機関を詳しく説明している。</p>	<p>面会時あるいは意見箱、苦情相談窓口を設置し、常に傾聴の姿勢を明示されている。最近、家族の苦情に対し、直ぐ管理者が対応し納得いただいた経緯もある。すぐ記録にとり全職員で検討後、運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>上・下の関係なく何でも話し合える雰囲気である。</p>	<p>職員の意見や提案を聞く機会が多く、運営に反映されている。職員の生活に配慮した雇用もあり、働く意欲の向上につながっている。又、資格取得に向けた支援もある。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>給与水準は決して高くないが「処遇改善交付金」でどうにかできるのかなと感じる。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修などへの参加を大いに薦めており、シフトの変更も優先で行っている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>勉強会や研修への参加が増えてきた</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>受け入れに対して十分に家族よりの情報をもらうようにしている。包み隠さず、話してもらえそうな雰囲気も大切である。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>「どこまでの要望に答えられるのか」をはっきり相手に伝えることが信頼関係を築く第一歩と考えている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>どこまでやれるかをはっきり伝え、「まず家族が一番」を自覚してもらおうよう話している。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入所者様もみんなが家族のようで、食卓へみんながそろわないと、心配されるほどである。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常にとともに支える関係でありたいし信頼関係をきずくことこそが支える第一歩である。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>デイサービスからの面会や家族とのふれあいを支援している。なるべく利用料の支払いを持参でお願いしている。</p>	<p>入居前の人間関係や地域社会との関わりは生活歴で把握され、その人らしく地域で生きていく為に地域との接点を持ちながら、関係を継続できる様に支援がされている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う人との語らいや、スタッフとのコミュニケーションを通じてよりよい関係を目指している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退院後も入院施設への面会や家族との交流があり、ホームで一緒に昼食を食べたり、している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>家族からの希望も含め本人の生活パターンからも思いを汲み取るようにしている。</p>	<p>日々の関わりの中で声をかけ、又、行動や表情からも把握されている。少し難聴の方には、耳元で話しをし、曖昧な伝わり方にならない様に気をつけられている。</p>	

24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族の方からの聞き取りや、ご本人との会話の中より把握に努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人一人の体調と相談しながら、過ごし方を決めている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>面接の折りなどに生活の状況を説明し、いろいろなアイデアを取り入れながら、とりあえず何が一番ベストなのかを探し実行に移している。</p>	<p>アセスメントを含め全職員で意見を出し合い、問題点は担当者会議であげ、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>朝・夕の申し送りを丁寧に行い、申し送りノートに記入し、必ず全員が情報を共有できるようにしている</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>同一組織内にある整骨院より毎日リハビリに来てもらっている。自立支援のサポートとして助かっている。</p>		

29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の学校周辺の掃除や、格好のうさぎへのえさやりなどされている。 (日曜日)</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>できるだけ、ご家族の希望のかかりつけ医での医療を薦めている。</p>	<p>毎週、訪問看護師による健康管理が行われているが隣接する法人内の看護師にも、状態変化を相談する事もあり適切な医療につなげている。認知症の専門医や必要な診療科目の受診も可能である。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の体調の変化には、常にスタッフ間での共有と看護師への報告を行い、アドバイスを受けている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関との連携や相談など常に行い、不安なく介護ができる体制作りに努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族の意向を十分に取り入れ、ホームでできる限りの支援に努めている。又、ご家族との連携を蜜に取り合っている。</p>	<p>本人家族の意向を大切に、ホームの力量を見極めながら今できる最大の支援を踏まえ、医療関係者、ホームが連携をとり、方針の共有が図られている。終末期の家族の宿泊も可能である。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>普通救命を全社上げての受講が義務付けられている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震や火災、夜間などの避難訓練を年2回(義務付け)利用者と共にやっている。</p>	<p>消防署立ち会いの下、地震と昼夜想定火災避難訓練を同法人の3事業所合同でされ、避難経路の確認に加え、消火器の使い方通報装置の仕方等学ばれた。災害に備えた備蓄や個人情報ファイルも準備されている。地域への参加を呼びかけたいとされてる。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重した声かけは最重要課題として取り組んでいる。「なじみ」は大切だが、節度をもって行いたい。	昨年の外部評価結果に伴い取り組まれており、一生懸命頑張っているが、時として言葉かけに配慮が足りない時がある。	職員の言葉かけや内容が利用者の誇りやプライバシーを損ねるものになっていないか、常に具体的に確認し合うと同時に研修を受け周知徹底される事に期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中より、思いや希望を聞きだしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ寄り添いながらの一日を送れるよう気をつけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族がいらっしやらない方へ同じ入所者の家族から「母のでよければどうぞ」と声をかけてもらっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が一番の楽しみであり待ち遠しい。手伝いができる人と一緒に楽しく行っている。	毎食の汁物は同じ具材にならない様に献立ノートで共有が図られ、旬の食材を取り入れ、個々に合わせた食事形態で職員も一緒に食事されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ソフト食・トロミ食など一人一人の状態に合わせている。又、水分量も把握し、できるだけ摂れるもので補うようにしている。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	見守り、介助で行っている。		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	可能な限りトイレでの排泄を支援して来たが、重度化により夜間は全員がリハパン・オムツになっている。	昼間は尿意のない利用者にも時間を見計らってトイレによる排泄支援が行われている。おむつやパット使用は、個々に時間帯、種類等常に見直されている。	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	野菜を多く取り入れたり、水分量も把握し、極力下剤の服用を抑えられるようにしている。		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	一応、曜日は決めているがその限りにあらず、必要に応じて入っていたり、入浴していない。	基本的には、年間を通じて週2、3回の支援であるが、夏は希望があれば毎日でも可能である。チェック表をつけ、入浴不足がない様に状況を把握し、清潔保持に務められている。	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	昼夜逆転しないように気をつけている。		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	情報は常に申し送りノートにて共有するようにしている。投薬時、声を出し確認している。		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>「手伝いはない？」と楽しみにされている。手伝いを何か探すスタッフが大変である。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>だんだんと外出の度合いが少なくなってきた。ご家族様へ協力をお願いしている。</p>	<p>全員庭先で外気浴をしながらお茶を飲んだり、限られた人ではあるが、食材の買い出し、散歩等、気候を見ながら可能な限りの支援が行われている。秋には紅葉見物も予定されている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出時には、預かり金より渡している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>コードレスにて話をされる。これからはかかる時はスタッフが支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自分の部屋作りをされている部屋もあり、楽しそうである。</p>	<p>自宅の延長と捉え、過度な掲示物や装飾はなく、個々の感覚や価値観を大切にしながら、気持ちよく過ごせる様に配慮されている。温度調節がされ、嫌な臭いもない。また、居心地の良い生活空間となっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれに思い思いの場所できつろがれている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族の人と一緒に作られる。その後は本人が使いやすいようにされている。	大切にされている物や安らぎを得る馴染みの物を持ち込まれ、慣れ親しんだ生活様式が守られ、安心して暮らしている様子が窺える。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てバリアフリーであり、各部屋にトイレ付で、プライバシーに配慮し、安全に生活していただくよう努めている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない